

各位

近畿農業協同組合研究会
代表者 北川太一

令和4年度近畿農協研究大会(通算第273回研究会)の開催について

拝啓 時下、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。近畿農業協同組合研究会は、JAの理論的・実践的諸問題を研究討議し、JA運動の発展に寄与することを目的に、昭和34年に設立された歴史ある団体です。最大の特色は、JA役員、行政の農協指導担当者、農協論の研究者が一体となって研究会を運営・開催し、自由な立場で論議を重ねているところです。つきましては、公務ご多忙のこととは存じますが、貴団体の関係者の出席につきご配慮を賜わりたくよろしくお願い申し上げます。なお、貴団体の支所(店)関係者にもご連絡のうえ、多数ご出席いただければ幸いです。

敬 具

☆ テーマ 協同組合のアイデンティティを考えるー地域に根ざした事業の存在意義ー

コロナパンデミックの発生、頻繁に起こる自然災害、国家間での紛争、それらにともなう地域経済・農業を取り巻く経営環境の悪化など、「VUCA時代」と表現される先行きが見通せない状況の中で、固有の価値・原則・存在意義(アイデンティティ)を有し、特に「人と人との繋がりを大切にしながら、地域に根ざす」というアイデンティティに忠実に事業を行う協同組合に対して、生活・経営の持続性を保障してくれるものとして、地域住民の期待が高まっている。

昨年(2021年)12月にはICAソウル大会が開催され、協同組合のアイデンティティについての議論が行われたが、本研究大会においては、上記のように「人と人との繋がりに基づく」、「地域に根ざす」アイデンティティ(価値・存在意義)に着目する。そしてそれらのアイデンティティに基づくJAの事業の成果、すなわち食と農をめぐりJAが果たしてきた地域を支える役割を再確認するとともに、特に地域における食料安全保障面でのJAの役割を事例として討議を行い、「VUCA時代」におけるその重要性や、今後の課題について検討する。

1 と き 令和5年1月31日(火) 13:00 ~ 16:40

2 会 場 京都JAビル 京都市南区東九条西山王町1

3 開催方法 対面およびZoomによるオンラインのハイブリッド開催

4 も ち 方

(1)代表者挨拶 近畿農業協同組合研究会 代表者 北川太一
(13:00~13:05)(2)歓迎の挨拶 京都府農業協同組合中央会
(13:05~13:10)(3)座長解題 摂南大学院 農学部 教授 北川太一氏
(13:10~13:20)(4)報告Iと質疑(13:20~14:50)
報告I 地域における食料安全保障をめぐる諸課題とJAへの期待
東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授 鈴木宣弘氏
コメンテーター 奈良女子大学 生活環境学部 専任講師 青木美紗氏

《休憩》(14:50~15:00)

(5)報告IIと質疑(15:00~16:30)
報告II 協同組合としてわがJAが地域に果たしてきたこと
京都府 京都市農業協同組合 常務理事 荒木俊哉氏
コメンテーター 和歌山県 ありだ農業協同組合 ふれあい部長 川嶋美明氏

(6)座長まとめ(16:30~16:40) 前掲 北川太一氏

5 申込方法

申込締切日：1月24日(火)

ご参加の場合は、「所属団体名」、「役職名」、「氏名」、「対面参加かオンライン参加」をE-mail (moushikomi@kinkinouken.jp) でご連絡ください(QRコードからも申し込みます)。オンライン参加の場合、メールアドレス宛にZoomのリンク等を連絡します。参加会費は、対面参加の場合、会員1,000円、非会員1,500円、オンライン参加は無償です。

